

春の叙勲 旭日単光章



畜産業の振興に尽力
藤岡俊策さん(73歳・田代)

藤岡俊策さんは、昭和44年に江刈酪農協同組合（現新しいわて農業協同組合）に就職し、組合職員として乳牛の改良や生産技術指導、後継者育成に力を入れ、江刈酪農生産部会の結成などに取り組みました。また、町農業委員として5期15年にわたり、耕作放棄地対策や小規模農地の集積など地域の農業基盤整備に尽力されました。

現在も約60頭を飼育する現役の酪農家。全日本ホルスタイン共進会に県代表として4回出場するなど乳牛改良の高い技術を有し、藤岡さんが改良した産乳能力の高い乳用牛の子孫は県内外に広まり、畜産業の発展に大きく貢献されました。

藤岡さんは「牛づくりは人づくり」という思いでやってきました。今、飼料の高騰など厳しい状況ですが、酪農家の皆さんがより働きやすい環境が整い、これからは町の基幹産業が発展することを願っています」と語っていました。

新たな働き方で関係人口創出へ サテライトオフィスくずまぎ完成



旧葛巻幼稚園の面影を残す外観（円内）と、研修会にも利用できるワーキングスペース（働く人が共同で利用する場所）

「テレワーク先進地・くずまぎ」を目指す取り組みの中心となる施設「サテライトオフィスくずまぎ」が、下の旧葛巻幼稚園舎を改修して整備されました。

この施設は、新型コロナウイルス感染症拡大を機に普及しているテレワーク（時間や場所の制約を受けない働き方）などを推進する施設です。自然豊かで子育て環境が充実している本町で新たな働き方を推奨することで、都市部からの関係人口の拡大と将来的な移住、定住の促進をねらいとしています。

施設には無料Wi-Fiを利用し、仕事ができるスペースや、Web会議が行える会議室などを備えているほか、酪農の歴史が学べる資料コーナーも併設されており、地域住民の利用も可能です。

当面は施設の一部を除き無料で貸し出し、試験的に運用します。利用には事前の申請が必要ですので、詳しくはお問い合わせください。

図総務課 ☎66・2111 内線225

北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会 早期実現を目指して決議

北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会（会長、鈴木重男葛巻町長）は5月29日、くずまぎ高原牧場もく・木ドームで、第4回決起大会を開催し、関係者や来賓など約100人が参加しました。

同路線は、昨年6月に県が策定した「新広域道路交通計画」により、高規格道路としての役割が期待されるものの個別路線の調査に着手していない構想路線として「（仮称）久慈内陸道路」の名称で位置づけられました。

会長の鈴木町長は「これまでの活動が、構想路線というひとつの成果に結びつきました。本路線は、農山漁村と都市をつなぐ社会基盤であり、地域間交流、防災、医療、福祉など多面的な分野で重要な役割を持つもので、早期実現に向かって今後も皆さんと結束していきたい」とあいさつしました。

来賓の鈴木俊一財務大臣は「国は今、都道府県の意見を聞きながら新しい交通路線の体系を作ろうとしています。



会長としてあいさつを述べる鈴木町長



会の活動を激励する鈴木財務大臣と基調講演を行う岩手大学の齋藤教授



大会に出席した関係市町村の皆さん

その中で本路線が県の構想路線とされたことは大きな意義があり、実現に向け今後もしっかりと進んで欲しい」と祝辞を述べました。

基調講演では、齋藤徳美岩手大学名誉教授が、津波発生時の内陸部の後方支援拠点の役割を説明。参加者は、本路線の防災上の重要性を再確認しました。

最後に、副会長の小田祐士野田村長が大会決議を読み上げ、路線の早期着工・整備、道路ネットワークの強靱化、予算の確保や人員体制の強化などを求める3項目の要望事項が、満場の拍手で決議されました。



①②企業向けに貸し出すシェアオフィス(4室) ③個人ワーク専用ブース(2室) ④冷蔵庫などの家電も備った調理室 ⑤酪農の歴史を学べる資料コーナー